

2026年度 授業計画（シラバス） 日本コンピュータ専門学校

学科名	学年	授業のタイトル（科目名）
情報処理システム科	1年	経済学
授業の種類	授業担当者	実務経験
<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	若林 英男	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無

[実務経験歴]

-大阪府国際化戦略アクションプログラム・グローバルビジネス体験講座講師として、現代の日本を取り巻く国際環境・グローバル経済などを主に国際教養科のある大阪府内の公私立高校にて講演及び講義
 -外国語系専門学校にてグローバル経済・国内経済問題など時事問題を講義
 -外務省職員に対して現代の正しい経済知識をベースにした金融・財政問題、グローバル経済問題の時事和文英語を7年間指導

単位数（授業の回数）	時間数☒	配当時期	必修・選択
2 単位 （ 30 回 ）	60 時間	<input type="radio"/> 前期 <input type="radio"/> 後期 <input checked="" type="radio"/> 通年	<input type="radio"/> 必修 <input checked="" type="radio"/> 選択

[授業の目的・ねらい]

- ①現代社会の基本的な経済活動を理解する。
- ②現代社会の基本的な経済の仕組みを理解する。
- ③日本経済とグローバル経済の関係を理解する。
- ④現在の経済の動向と予測される将来の経済動向を理解する。

[授業全体の内容の概要]

- ①基本的な経済活動（マクロ経済・ミクロ経済）
- ②経済を見る視点（GDP・経済成長・景気動向・政府や民間の役割など）
- ③経済の仕組み（市場経済・計画経済・政府の役割・中央銀行の役割・通貨の機能など）
- ④物価と為替の動き（物価変動・インフレ・デフレ・為替相場・グローバル経済との関係など）
- ⑤お金の大局的な流れ（国際収支・財政赤字・日本銀行の役割など）
- ⑥日本経済の動き（アベノミクス・デフレ脱却・社会保障制度の仕組みなど）

[授業終了時の達成課題(到達目標)]

社会の経済的基礎知識を習得し、国内・グローバル経済の理解力を身につける。

[使用テキスト]

使用テキスト
 これだけは知っておきたい経済の基本と常識
 参考文献
 必要に応じて授業の中で紹介する。

[単位認定の方法及び評価の基準]

定期試験と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。
 ・試験の点数は60点以上を合格点とする。
 ・全出席日数の4分の3以上の出席が必要。
 評価基準
 定期試験80%、平常点（出席、講義の参加度）20%とする。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

1回	オリエンテーション
2回	経済活動
3回	マクロ経済・ミクロ経済
4回	経済指標
5回	経済成長・GDP

6回	好況・不況のサイクル
7回	家計及び企業の役割
8回	まとめと振り返り
9回	市場経済・計画経済
10回	合成の誤謬
11回	通過・日本銀行の役割・金融政策
12回	物価・インフレーション・デフレーション
13回	為替レート・為替相場
14回	マネーストック
15回	まとめと振り返り
16回	債権
17回	国際収支・財政赤字
18回	日本銀行の役割
19回	アベノミックス
20回	デフレ脱却・インフレ目標
21回	政府の収入と支出
22回	異次元の金融緩和
23回	まとめと振り返り
24回	少子高齢化・社会保障問題
25回	米国サブプライムローン問題・欧州通貨危機
26回	エネルギー安定確保と脱炭素社会
27回	ESG投資拡大
28回	日本型雇用と格差拡大
29回	アフターコロナの経済
30回	まとめと振り返り